第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ナゴヤダルマガエル

Pelophylax porosus brevipodus (Ito, 1941)

松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：松井正文，2026．ナゴヤダルマガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 496-500．

Citation: Matsui, M., 2026. *Pelophylax porosus brevipodus* (Ito, 1941). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 496-500.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae　　日本固有

ナゴヤダルマガエル

***Pelophylax porosus brevipodus* (Ito, 1941)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　B1ab

基準 A:　―	基準 B:　EN	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

B1．出現範囲が 5000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。
【過度に分断】
低湿地、特に水田に限って分布するが、愛知県などを除き、水田地帯は近年、都市部近郊を中心に、隔離・減少の傾向が強く、本種の分布も著しく分断されている。分断された小集団の絶滅リスクは高い状態にある。
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
主要な生息地である水田の減少、営農形態の変更という人為的環境改悪は無くなっていない。山陽地方最西部のほとんどと四国では近年絶滅した。静岡県東部や広島県などのかつての生息地のほとんどで、近年絶滅や継続的な減少が推測される。保全活動のうち、移殖の試みはこれまでほとんどすべて失敗しており、保全活動における今後の課題である。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種の分布域は日本産のカエル類の中では狭く、中部地方から山陽地方と、四国地方の一部に限られているが、現在の生息状況はきわめて芳しくなく、各地で着実に絶滅に近づいている。

基礎情報

【形態】

体長はオスで 56 mm、メスで 63 mm 程度。後肢は短く、みずかきは良く発達する。幅広く明瞭な背側線隆条と、その間に短く弱い隆条をもつ。背面の基色は緑褐色、背側線は赤褐色で、孤立した円型の黒色斑紋をもつのが普通。個体によっては明色の背中線をそなえる。腹面は白く、暗色の雲状斑紋をもつことがある。重複して分布するトノサマガエルは体がより大きく、四肢は長く、背中線をもつのが普通で、背面の黒色斑紋は連続し、オスにはメスと顕著に異なる婚姻色が発達し、腹面には斑紋がなく、鳴き声の一声が短い。東日本に分布する基亜種トウキョウダルマガエルは、本亜種とトノサマガエルの中間的な特徴をもつ。

【生活史】

成体は春から秋にかけて活動を行い、4 月下旬～7 月中旬にかけて繁殖する。繁殖場所は水田が普通で、その他、溝、浅い池、沼など、いずれも浅い止水が利用される。オスは強い縄張性を示す。メス一腹中の完熟卵数は 1,300～2,200 個程度で、何回かに分けて放卵する。大型のメスでは産卵後しばらくすると、再び少量の卵が完熟し、2 度目の産卵を行う。幼生は 5 月から水中で成長・発育し、7 月～9 月に変態、上陸する。 繁殖個体の平均年齢は不明だが、オスの多くとメスの一部は変態した年の秋に成熟し、メスの残りも、翌年の繁殖期間中に成熟し、繁殖する。寿命は不明である。変態後は単独で生活し、クモ、昆虫、ムカデなど、各種の無脊椎動物の他、カエルも捕食する。

【生息環境】

ほとんど水辺から離れず、繁殖期、非繁殖期ともに低地湿原、低湿地帯の水田、その畔と農道、側溝、用水路、小河川で生活する。冬眠は水の干上がった水田の土中や敷き藁の下でなされる。

生息環境区分：	【陸域_平地部】田地・畑地，湿地・湿原，ワンド，農業用水路，小河川，ため池・池沼
国土地域区分：	（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域

【分布域】

分布域は、本州の中部地方南部、東海、近畿地方北・中部、山陽地方東部と四国地方の一部という温暖な地域に限られている。

現在の生息状況

【分布域の現況】

福井県、広島県内陸部の産地は近年の発見であったが、より最近になり、京都府の日本海側での発見があった。既知の産地のうち、京都市・大阪市・豊中市・神戸市・岡山県・香川県の多くと、広島県のほとんどでほぼ確実に絶滅しており、静岡県東部などその他の多くの地点でも絶滅に瀕している。低湿地に生息するため、山地や市街地によって分断さ

れている。わずか 3 地域で確認されていただけの広島県下では、現在野生集団はほとんどいない。

【生息地の現況】

全分布域を通じて、かつては多量の農薬使用がなされた。岡山県下では、広大な水田地帯が埋め立てられて工場や住宅団地に変わり、農業改善によって河川や側溝のほとんどが 3 面コンクリート補強型となり、水が家庭廃液で汚染されたことが、すでに半世紀ほど昔に報告されている。

【個体数の現況】

山陽地方最西部のほとんどと四国の個体群は近年絶滅した。地域個体群別の推定個体数は不明だが、すべての地域で減少していることは疑いない。京阪神では、すでに今から半世紀ほど昔には水田が畑地、宅地になったため、激減した。

存続を脅かす要因

生息地破壊が最大の脅威で、水田の減少、家屋・道路の建設やそれにともなう水質汚濁、河川敷の公園化などを含む。また、生物教材用に捕獲されてきた。移入種ウシガエルによって捕食されていると思われる。生息環境の開発、破壊によって、トノサマガエルとの完全なすみ分けができなくなり、自然交雑を生じて遺伝的な純粋性を失いつつある。加えて近年の極端な異常気象による水害や干ばつも生存に被害を及ぼしている。

要因の区分：	（過去）	河川開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），捕食（在来種による），競争/競合（在来種による），交雑（在来種による）
	（現在）	河川開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），捕食（在来種による），競争/競合（在来種による），交雑（在来種による）

特記事項

トノサマガエルと長らく混同されてきた動物で、その発見年代が日本本土産のカエルとしては新しいこと、自然雑種形成、遺伝子浸透の絶好のモデル動物であることから、日本産の両生類のなかでもとくに注目に値する。また、東海・近畿地方産の名古屋種族と、瀬戸内海沿岸産の岡山種族では、形態や鳴声がある程度分化しており、種分化の解明のために各地の個体群が重要である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*	EN
第４次 2019：	ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*	EN
第４次 2018：	ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*	EN

第４次 2017：	ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*	EN
第４次 2015：	ナゴヤダルマガエル	*Rana porosa brevipoda*	EN
第４次：	ナゴヤダルマガエル	*Rana porosa brevipoda*	EN
第３次：	ナゴヤダルマガエル	*Rana porosa brevipoda*	EN
第２次：	ダルマガエル	*Rana porosa brevipoda*	VU
第１次：	ダルマガエル	*Rana porosa brevipoda*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【福井県】県域絶滅危惧Ⅱ類，【長野県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【岐阜県】絶滅危惧Ⅱ類，【静岡県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【三重県】絶滅危惧ⅠB 類(EN)，【滋賀県】絶滅危機増大種，【京都府】絶滅寸前種，【大阪府】CR+EN，【兵庫県】Bランク，【奈良県】絶滅寸前種，【岡山県】絶滅危惧Ⅰ類，【広島県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【香川県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【愛媛県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

都道府県条例指定種【滋賀県・京都府・奈良県・広島県・愛媛県】

参考文献

- Hirai, T. and M. Matsui, 2001. Food habits of an endangered Japanese frog *Rana porosa brevipoda*. Ecol. Res., 16(4): 737–743.
- Khonsue, W., M. Matsui, T. Hirai and Y. Misawa, 2001. A comparison of age structures in two populations of a pond frog *Rana nigromaculata* (Amphibia: Anura). Zool. Sci, 18(4): 597–603.
- Komaki, S., A. Kurabayashi, M. M. Islam, K. Tojo and M. Sumida, 2012. Distributional change and epidemic introgression in overlapping areas of Japanese pond frog species over 30 years. Zool. Sci., 29(6): 351–358.
- 松井正文，1996．ダルマガエル，日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（III），pp. 262-267，日本水産資源保護協会，東京．
- 松井正文，2000．ダルマガエル，環境庁（編），改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック―（爬虫類・両生類）pp. 88-89，自然環境研究センター，東京．
- 松井正文，2022．日本のダルマガエル類：分類と分布．守山拓弥・中田和義・渡部恵司（編）．ダルマガエル 生態を知って農業で守る，pp. 31-46．農文協，東京．
- 大河内勇・宇都宮妙子・宇都宮泰明・沼澤マヤ，1997．ダルマガエル（*Rana porosa brevipoda* Ito）岡山種族の飼育下での繁殖と絶滅が危惧された個体群への補強的な再導入．保全生態学研究，2: 135-146．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pelophylax porosus brevipodus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pelophylax porosus brevipodus* is listed as EN under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 5,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Farmland, Wetland, Inlet, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond
Threat types:	River development, Field preparation, Land development, Transportation infrastructure construction, Water pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species), Predation (by native species), Competition (with native species), Hybridization (with native species)
Law designation status for conservation	Prefectural Ordinance-Designated Species【Shiga・Kyoto・Nara・Hiroshima・Ehime】.



執筆者:	松井正文（京都大学）
Author:	Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月